

# 中小規模私大・短大における教学IR

## 合同IR研修会 事例共有し改善につなげる

9月13日に「第3回合同IR研修会」が中京学院大学の瑞浪キャンパスにて行われた(ハイブリッド開催)。研修会のテーマは「中小規模私立大学・短期大学における教学IRの推進に向けた実践的取組」と題し、参加大学間における教学IRを起点とした教学に関する課題の解決策等を探求することを目的に開催した。

今回で3回目となった合同IR研修会であるが、そのきっかけは、同大学の元大須賀元彦准教授と九州共立大学の西川三

恵子教授が旧知であったことから、小規模私立大学を中心とした教学IRに関する研修会ができないかと提案したことが始まり

である。その後、両大学はこれまでの合同IR研修会等で交流を深め、同大学と九州共立大学、九州女子大学・九州女子短期大学(九州共立大学と同法人)は2023年度に教学IRの推進を含む連携協定を締結した。

このような背景もあり、今回の研修会は同大学(主担当)、九州共立大学、九州女子大学・九州女子短期大学による共催で実施し、これら大学のIR担当者に加え、同大学と2017年度から連携協定を結んでいる文京学院大学(第2回から参加)と、同大学と学会等で交流のあった愛知東邦大学(初参加)のIR担当者が参加した。

今回の研修会のプログラムは事例報告、コンサルティング、パネルディスカッションから構成され、同大学の事例報告では今年度より実施している教学IRの分析に基づいた提案をより関連組織に反映させる仕組み(教学IR室 Ring)が取り上げられた。また同大学は文京学院大学、九州女子大学・九州女子短期大学に対して教学IRの実務経験に基づくコンサルティングを行い、同大学に対しては九州共立大学、九州女子大学・九州女子短期大学からコンサルティングを受けた。パネルディスカッションでは「分析結果を現場に活かすには」と「教学IR組織における人材育成の在り方」の2つのテーマが設けられ、参加大学のIR担当者に加えて同大学の関連教職員もパネリストとして参加した(詳細は同大学ウェブサイトを参照)。

研修会の成果として参加大学の実践的な取り組み事例が共有される機会になったと共に、コンサルティングに参加した大学においては自大学の教学IRの改善につながる助言等が取り交わされた。パネルディスカッションでは所属大学の垣根を越えて議論が交わされ、教学IRの推進に向けた知見が共有された。その一方で、研修会に参加する大学を今後どのように広げていくのが運営上の課題となっている。

研修会の主担当を務めた同大学の教学IR組織(教学IR室)は2021年度に全学的な教学に関する分析業務を担う学長直下の組織として誕生している。原則毎月1本の分析レポートの配信といった分析業務だけではなく、「小規模私立大学」という特性を活かし、その分析結果を教学マネジメントに反映させるための企画立案やその運営にも機動的に取り組んでいる。同大学の教学IR組織は今後もIR研修会等を通じた中小規模私立大学の教学IRの推進に向けた取り組みを実施予定である。



左から中京学院大学林勇人学長、同大学大須賀元彦准教授、九州女子大学関洋輔准教授、九州共立大学堂野崎融教授

この研修会は同大学(主担当)、九州共立大学、九州女子大学・九州女子短期大学による共催で実施し、これら大学のIR担当者に加え、同大学と2017年度から連携協定を結んでいる文京学院大学(第2回から参加)と、同大学と学会等で交流のあった愛知東邦大学(初参加)のIR担当者が参加した。

今回の研修会は同大学(主担当)、九州共立大学、九州女子大学・九州女子短期大学による共催で実施し、これら大学のIR担当者に加え、同大学と2017年度から連携協定を結んでいる文京学院大学(第2回から参加)と、同大学と学会等で交流のあった愛知東邦大学(初参加)のIR担当者が参加した。

今回の研修会のプログラムは事例報告、コンサルティング、パネルディスカッションから構成され、同大学の事例報告では今年度より実施している教学IRの分析に基づいた提案をより関連組織に反映させる仕組み(教学IR室 Ring)が取り上げられた。また同大学は文京学院大学、九州女子大学・九州女子短期大学に対して教学IRの実務経験に基づくコンサルティングを行い、同大学に対しては九州共立大学、九州女子大学・九州女子短期大学からコンサルティングを受けた。パネルディスカッションでは「分析結果を現場に活かすには」と「教学IR組織における人材育成の在り方」の2つのテーマが設けられ、参加大学のIR担当者に加えて同大学の関連教職員もパネリストとして参加した(詳細は同大学ウェブサイトを参照)。

研修会の成果として参加大学の実践的な取り組み事例が共有される機会になったと共に、コンサルティングに参加した大学においては自大学の教学IRの改善につながる助言等が取り交わされた。パネルディスカッションでは所属大学の垣根を越えて議論が交わされ、教学IRの推進に向けた知見が共有された。その一方で、研修会に参加する大学を今後どのように広げていくのが運営上の課題となっている。

研修会の主担当を務めた同大学の教学IR組織(教学IR室)は2021年度に全学的な教学に関する分析業務を担う学長直下の組織として誕生している。原則毎月1本の分析レポートの配信といった分析業務だけではなく、「小規模私立大学」という特性を活かし、その分析結果を教学マネジメントに反映させるための企画立案やその運営にも機動的に取り組んでいる。同大学の教学IR組織は今後もIR研修会等を通じた中小規模私立大学の教学IRの推進に向けた取り組みを実施予定である。